



2007年4月25日 Vol.345

MIHARA ANNIVERSARY

### 3月例会開催

## 三原テレビにて放映!!

#### 放映時間

4/28(土) 21:00~  
4/29(日) 10:00~  
4/29(日) 21:00~

## わがまちの教育問題 徹底討論!

共育委員会(村上陸宏委員長)は去る3月19日(月)三原国際ホテルにおいて「わがまちの教育問題 徹底討論!」と題し、3月例会を開催しました。今例会では三原の教育現場の前線でご活躍中の3名の方をお招きし、(社)三原青年会議所 渡辺理事長を交え、パネルディスカッション形式で、いくつかの現在の教育問題をそれぞれの立場から分析し討論していただきました。



#### パネリスト

- ふれあい教室 指導員 浦島 啓氏 (うらしま あきら)
- 三原市教育委員会 学校教育課 課長 (4月より三原市立宮浦中学校校長) 井原 剛治氏 (いはら こうじ)
- 三原市PTA連合会 母親代表 和久野千尋氏 (わくのちひろ)
- (社)三原青年会議所 理事長 渡辺 敏 (わたなべ さとし)

### 不登校問題について

### 家庭の教育力について

**浦島氏** もともと全国的にみて、広島県は不登校問題が深刻であり、三原も例外ではありませんでした。しかし、最近では様々な方々のご協力もあり、三原では減少しつつあります。しかしながらまだ全国平均に近づいているというレベルでまだまだ深刻です。

**浦島氏** 子どもの健全な成長には、朝ご飯、早寝・早起きなど、正しい生活リズムをとることが重要ともいわれております。しかしながら現在の子どもたちにとって、この環境が整っているとはいえないと思います。これを改善するのは家庭でないと出来ないのではないのでしょうか。

#### 和久野氏

学校と家庭の連携が大切で保護者も、もっと学校に関わってゆけばよいと思います。そして困ったときには地域の皆様の協力を頂きたいと思います。日頃から地域との交流を持っていけば、必ず力を貸してくれるはずだと思います。

**和久野氏** 私の子どもの通っている学校でも、不登校の生徒がいることは聞いています。他人事ではなく、現実身近な教育問題なのだと感じています。

**和久野氏** 昔とは子どもたちを取り巻く環境が変わってきており、ゲーム、テレビといった誘惑が多いのも現実ですし、これを否定することもできません。ただ、そういった欲望をすべて満たすのではなく、節度を持たせることが必要で、こういったことは家庭で教えてゆくことだと思います。

#### 理事長

人間は明るい未来がないと生きてゆけません。その未来の大切さをもう一度よく考えて欲しいと思います。将来を担う子どものために、お互いがお互いの立場を尊重しあい、地域の大人が子どもに関わってゆくきっかけ作りが大切だと考えます。共働き夫婦やひとり親の増加などで、子どもと接する時間や環境が減っている中、家庭教育で足りない部分は地域の大人が補ってゆくことが必要なのです。

**理事長** 小学児童でも深刻ですが中学生徒では急に増えていることに驚かされます。

**井原氏** 不登校の問題に限らず、すべての児童生徒に限られた数の教師で完全に把握することは難しいのが現実です。まず家庭生活の中で、子どもの変化に気づき、何かあればすぐ学校に教えて欲しいのです。学校と家庭が責任のなすりあいではなく、協力してゆかなければ良い結果は出ないと思います。

#### 例会を終えて……



共育委員会 村上委員長

4名のパネリストに熱く討論していただき、考え方は違えどもすべては将来を担う子どものためであり、それぞれの立場で同じ目標に向かって頑張られていることを強く感じました。どうすることが正しいというのではなく、子ども

**井原氏** 中学校で急に不登校生徒が増えるのは、精神的にも多感な時期であることが大きな要因だと考えられます。ただ、不登校になるのは中学生からでも小学校時代から抱えている要因に起因する場合があります。だから小学校から連動して取組まなければなりません。問題が深刻化する前に、児童生徒が体調不良以外で学校を2日休んだら家庭訪問する学校もあり、未然に防げるようにも努めています。

**浦島氏** 不登校問題を解決する上で、目標を持たせることは最も重要なことのひとつです。しかしながら、不登校の原因は複雑であり、それを解決するには根気強くそれぞれに向きあってゆかなくてはなりません。自分だけで抱え込むのではなく、家庭・学校・地域が連携をとってゆくことが重要なのです。

### 家庭の教育力が低下している理由 上位10位(複数回答)

- 過保護、甘やかせすぎや過干渉な親の増加 …… 66.7%
- TV、映画、雑誌などが子どもに及ぼしている悪影響 …… 50.5%
- しつけや教育の仕方が分からず自信が持てない親の増加 …… 47.1%
- しつけや教育に関心で明確な方針を持たない親の増加 …… 44.4%
- 学校・塾等外部の教育機関に対するしつけや教育の依存 …… 44.2%
- 父親の存在感の低下 …… 35.8%
- 親以外の大人とふれあわせる機会の不足 …… 30.4%
- 職業を持つ母親や家庭外で活動する母親の増加 …… 25.7%
- 家族一人一人の個人主義化 …… 25.3%
- 子どもにいろいろな体験をさせる機会の不足 …… 23.7%

文部科学省委託研究「家庭の教育力再生に関する調査研究」(平成13年度) 調査対象:子どもと同居する親のうち、25~54歳の男女3,859人

取り巻く問題に向かい合って考えるということが、まず必要なのではないのでしょうか。テレビ等で報道されている子どもを取り巻く問題は大都市だけの問題ではなく、現在の三原でも大きな問題なのです。

この討論内容は三原テレビにて放映いたします。パネリストの皆様のお話から直接感じていただいて、もっと子どもに関わってゆかなくてはいけないことに気づいて欲しいのです。そして是非、皆様のご意見・ご感想を頂きたいと思います。三原の教育について、市民一体となって考えてゆきましょう!

### 不登校生徒年次推移

	不登校児童数(小学生)			不登校生徒数(中学生)		
	三原市	広島県	全国	三原市	広島県	全国
H13年度	19	801	26,503	81	2,988	112,193
H14年度	12	821	25,869	77	2,982	105,383
H15年度	9	814	24,077	77	2,868	102,149
H16年度	8	718	23,318	107	2,642	100,040
H17年度	18	733	22,709	85	2,488	99,546

資料:三原市教育委員会

### またかきいたか

◆桜並木の下を母親に手を引かれて入学式に向かう子どもたち、春風が優しく花びらを散らす、思わずため息がこぼれそうな絵に描いたような光景である。日本の国花でもある「桜の花に寄せる想い」は私たち日本人にとって少なからず共通の感情があるようだ。ほんの僅かの期間咲き誇り、潔く

散ってゆく気高さは武士道の象徴ともいわれる。◆武士道とは日本人としての心のあり方、身の振る舞い方を示唆するものであり、我が国の歴史・伝統・文化の中で培われてきた心の基軸であるといえよう。最近、武士道という言葉が耳にすることが多くなったが、国民がこの精神に日本人としてのアイデンティティを感じ始めたからかもしれない。◆現在、憲法改正を見据えて国民投

票法案について論じられているが、残念ながら国の基軸をどうするかという国家観について論じられないまま、争点が個々の条文にのみ向けられている感が否めないことである。また、憲法解釈という言葉が耳にすることがあるが、そもそも自国の憲法でありながら、どのように解釈するか論じる必要があることに基だ疑問を感じる。◆戦後60年、日本は現行憲法を基軸として歩ん

できた。国民の責任・義務よりも個人の自由・権利に重きを置いた現行憲法は皮肉なことに功を奏したといってもよい。憲法改正にあたっては国会議員の3分の2以上の賛成をもって国会が発議し、日本国民の半数以上が賛成票を投じる必要がある。日本人として「桜の花に寄せる想い」をひとつにすること以外に、この大きな壁を乗り越えることはできないのではなからうか。